

会務報告

◇ 委員会報告 ◇

● 大会委員会

◆2014年8月2日（土）、日本語教育学会会議室において2014年度第3回大会委員会が開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2014年度秋季大会（富山国際会議場）準備の進捗状況について

当日の業務体制を確認した。

2. 2015年度以降の大会企画・運営について

2015年度秋季大会で実施する企画について意見交換を行った。出された企画アイデアを開催地の実行委員会に伝え、現地のニーズとの調整を行うこととした。

2016年度秋季大会について、会場設備使用料等の見積もり合わせの結果、愛媛県松山市のひめぎんホールで開催することを決定した。

3. 大会委員会企画パネルセッションについて

本卒の定義・発表枠・広報方法についての枠組みの改定案が第4回常任理事会（7月27日開催）で承認されたことを受け、次回の実施に向けテーマ・内容に関する意見交換を行った。

4. 大会委員会改組についての具体的な構想の検討

次期（2015年7月～）から、大会委員を企画運営委員と査読司会委員に分けるにあたり、新体制案と業務について確認し、構想の基本的な部分について承認した。具体的な方針については、出された意見を参考に正副委員長により整理し、後日委員会にメールにて承認を得ることとした。

◆2014年10月11日（土）、10月12日（日）、2014年度日本語教育学会秋季大会を富山国際会議場で開催した。参加者は招待者・関係者を含めて442名であった。

1. 1日目は、開会式に引き続き、三つの会場で5件のパネルセッションが行われた。各パネルとも熱心な発表、討議が行われた。

2. パネルセッションと平行して教材紹介コーナーが実施され、5件の教材紹介が行われた。

3. 懇親会は、会議場内のホワイエで行われ、招待者・関係者を含めて106名の参加者があった。

4. 2日目には、四つの会場で19件の口頭発表、一つの会場で21件のポスター発表、一つの会場で4件のデモンストラレーションが、それぞれ行われた。どの会場も盛況であった。

◆2014年10月12日（日）、富山国際会議場206会議室において2014年度第4回大会委員会を開催した。主な議題と審議の概要は以下のとおりである。

1. 2015年度春季大会の企画・運営について

武蔵野大学・堀井恵子氏よりご挨拶と準備状況について報告があった。

2. 今大会実施状況の中間報告について

コンベンション施設での開催について概ね好評であり、トラブルが少ないとの報告があった。

教材紹介コーナーの時間帯や広報方法について再検討が必要であるとの指摘があった。

3. 大会委員会企画パネルセッションについて

次回は2016年度春季大会で実施することを決定し、作業日程を承認した。前回委員会で承認された新たな枠組みに沿った企画を行っていくことを確認した。

4. 2015年度秋季大会準備の状況について

開催地の実行委員会からの企画に関する提案が報告され、引き続き検討していくこととした。

5. 発表査読について

2015年度春季大会における査読方法および基準について確認した。

次回委員会予定：2015年1月31日（土）

（庵功雄）

● 学会誌委員会

2014年11月8日（土）午後1時～6時、日本語教育学会会議室にて委員会を開催した。

159号の刊行準備進捗状況、160号寄稿（シドニー日本語教育国際研究大会2014報告）の依頼先・原稿確認日程、理事会における学会誌委員会関連事項（平成27年度科研費申請の見送り、第2回意見交換会）などの報告の後、以下のとおり審議が行われた。

1. 160号のコラム「海外の学会から」の原稿執筆依頼候補の決定。

2. 160号投稿論文（投稿総数34本（研究論文17、調査報告7、実践報告7、研究ノート3）の審査。

3. 第10回林大記念論文賞選考部会員の承認。

4. 次期委員候補者の選定。

5. 162号特集（2015年12月号）の寄稿依頼の承認。

6. 165号特集（2016年12月号）の特集テーマの検討。

7. 判定要領および査読プロセスに関する再考。

8. 研究倫理規程案の検討。

次回委員会予定：2014年3月14日（土）

（齋藤ひろみ）

●研究集会委員会

◆研究集会実施報告

1. 2014年度第5回研究集会（関東地区）

「2014年実践研究フォーラム」

日時：2014年8月2日（土）、3日（日）

会場：東京外国語大学 府中キャンパス

参加人数：237名（会員148名、一般89名）

内容：ポスターセッション（15件）、対話型・体験型セッション（7件）、委員企画セッション（1件）、みんなの実践広場（15件+実践研究フォーラム相談コーナー）、パネルセッション「実践研究の力（チカラ）—実践研究発表後の教師の成長—」。

11年目を迎えた「実践研究フォーラム」は、発表・発題者、参加者それぞれが“関係性を構築する（つながる）「場・機会」”としての存在意義を改めて確認した。そのための新たな試みとして、従来の各セッションに加え、「みんなの実践広場」を設けて多くの人の情報共有や意見交換を求めたところ、学部生や非会員の出席などもあり非常に盛況であった。その様子は、参加者のアンケートにも見て取れる。しかしその一方で、ポスターセッションとの違いについての疑問なども指摘され、新たな課題も浮上した。また、一般参加費に「学割」を導入したことで大学学部生や大学院生の参加が見られたが、特に大学院生については幅が広く、これも今後の検討課題である。

内容については、対話型セッションのやり方が定型化してきたことや、パネルセッションの企画の仕方等、次回への課題も見えたため、他の勉強会、研究会ではなく、この「実践研究フォーラム」の場でしかできないことは何かをもう一度考え直し、それに合ったセッション企画、運営等を行っていききたい。

（村澤慶昭）

2. 2014年度第6回研究集会（関西地区）

日時：2014年9月6日（土）13：00-17：15

会場：大阪YMCA国際専門学校日本語学科

参加人数：129名（会員73名、一般47名、不明9名）

内容：講演、研究発表（口頭）10件

講演講師：真嶋潤子氏（大阪大学）講演題目：「グローバル化時代の日本語教育—社会的マイノリティーへの配慮—」

開催一週間前に学会HPおよびMLでご案内した開催時間の記載に誤りのあることがわかり、学会員へのメールによる再通知および研究集会委員その他関係者が周知に努め、当日は時間変更を知らずに参加した方はおられなかった。結果、129名の参加があった。また、講師の承諾を得て、講演冒頭の30分を録画し、別室にて上映したが希望された方は3名のみであった。講演は、社会的マイノリティーであるCLD児（Culturally Linguistical

ly Diverse Children）の現状と課題を認識することで、「日本語教育」を全人的な発達、認知力の発達も含めた言語教育と位置づけてとらえなおす必要を問いかけたもので、「何もなくさない日本語教育」を提唱された。また、バイリンガル教育の基礎知識および文科省で開発された対話型アセスメント（Dialogic Language Assessment）についてもご紹介いただいた。

（亀田美保）

3. 2014年度第7回研究集会（四国地区）

日時：2014年11月8日（土）13：00-17：00

会場：鳴門教育大学

参加人数：49名（会員26名、一般23名）

内容：講演、研究発表・実践報告（口頭9件、ポスター3件）

講演講師：茂木俊伸氏（熊本大学）、講演題目「外来語研究の展開と応用」

発表の応募は、四国地区内に留まらず、関西、関東、そして海外（台湾）からも寄せられた。発表者以外では、九州、中国、北陸からも参加があり、小規模ながらも多彩な顔ぶれの研究集会となった。特に、小学校、中学校、高等専門学校からも参加者が出ている点は、会場である鳴門教育大学の特徴が出たと言える。

茂木俊伸氏による講演では、まず、「「外来語の文法」の構想」として外来語の何が問題であるかが述べられ、続いて事例研究として外来語サ変動詞、および外来語程度名詞の各分析が紹介された。日本語教育用辞書の作成を念頭に置いた氏の外来語研究は日本語教育者にとっても日本語学習者にとっても益するところが多く、参加者たちはしきりにメモを取りながら講演に聞き入っていた。

本研究集会全体に対する参加者アンケートでは、「会場スタッフに親切に対応いただいて良かった」「道案内など、いろいろところで配慮を感じた」など、運営を評価する声を多数いただいた反面、「第二部で会場を4つに分けたことで、ただでさえ少ない参加者が分散してしまった」「参加者同士がゆっくり交流し情報を共有するような機会がなかった」などの問題点を指摘する声もいただいた。今後は、地区集会としての特性を活かし、関係者同士の連携を強化できるような工夫も必要である。

（田中大輝）

◆ 今後の研究集会予定

1. 2014年度研究集会

- ・第10回研究集会（関西地区）※発表応募締切済み。
2015年2月28日（土）、龍谷大学

2. 2015年度研究集会

- ・第1回研究集会（九州沖縄地区）

- 2015年6月6日(土), 7日(日), 北九州市立大学
 発表応募締切: 2015年2月11日(水)
 講演・ワークショップ講師: 畑中豊氏(福島県いわき市立江名中学校)「ことばの力を探求しよう—笑いと涙と学び、そして愛のある授業を通して—(仮題)」
- ・第2回研究集会(中部地区)
 2015年6月13日(土), 名古屋大学IB電子情報館
 発表応募締切: 2015年2月13日(金)
 ワークショップ講師: 池田玲子氏(鳥取大学)「ピラーニングによる日本語授業実践—授業デザインのポイント—(仮題)」
 - ・第3回研究集会(北陸地区)
 2015年6月20日(土), 富山大学
 発表応募締切: 2015年3月1日(火)
 講演・ワークショップ講師: 向後千春氏(早稲田大学)「日本語教師のための教える技術—教える技術と研修への活用—(仮題)」
 - ・第4回研究集会(北海道地区)
 2015年7月4日(土), 北海道教育大学函館校
 発表応募締切: 2015年3月6日(金)
 - ・第5回研究集会(関東地区)「実践研究フォーラム」
 2015年8月1日(土)・2日(日) 予定, 会場未定
 セッション発題応募締切: 2015年3月2日(月)
 実践広場出展応募締切: 2015年5月11日(月)
 - ・第6回研究集会(関西地区)
 2015年9月予定, 兵庫にて開催予定
 発表応募締切: 2015年5月予定
 - ・第7回研究集会(四国地区)
 2015年10月24日(土), 香川大学
 発表応募締切: 2015年8月予定
 - ・第8回研究集会(東北地区)
 2015年11月予定, 秋田大学
 発表応募締切: 2015年8月予定
 - ・第9回研究集会(中国地区)
 2015年12月予定, 広島女学院大学
 発表応募締切: 2015年8月予定
 - ・第10回研究集会(関西地区)
 2016年3月予定, 大阪にて開催予定
 発表応募締切: 2015年11月予定

※各地区研究集会のプログラム, 発表要旨, 発表募集情報等は, 日本語教育学会ウェブサイトの研究集会ページに掲載しています。

<http://www.nkg.or.jp/menu-syukai.htm>

◆会議記録

1. 全体委員会

- (1) 2014年度第2回研究集会全体委員会(2014年10月12日, 富山国際会議場(秋季大会会場))

<報告事項>

- ① 新委員紹介
- ② 伊東会長からの学会理念体系の説明
- ③ 各地区報告と予定
- ④ 研究倫理規程について

<審議事項>

- ① 2015年度発表応募規定
- ② 次期委員改選について
- ③ 情報交流ブースや営利目的を含む出展について
- ④ 有志による懇親会等について
- ⑤ その他各地区からの課題

2. 関東地区委員会(実践研究フォーラム実行委員会)

- (1) 2014年度第4回関東地区委員会(2014年10月18日)
- (2) 2014年度第5回関東地区委員会(2014年11月22日)

◆次回会議日程

1. 全体委員会

2015年度第1回研究集会全体委員会(2015年5月31日, 武蔵野大学有明キャンパス(春季大会会場))

2. 関東地区委員会

2014年度第6回関東地区委員会(2015年3月14日)

3. 地区代表者会議は, 来年度開催予定。

● 教師研修委員会

◆研修実施報告

1. 夏季集中研修「教える・学ぶ・考える」

—“評価価値観”“会話力”をとらえ直す—

ワークショップ①「評価について考える」

講師: 宇佐美洋(国立国語研究所)

ワークショップ②「課題遂行から考える会話力」

講師: 長坂水晶氏(国際交流基金日本語国際センター)

開催日: 2014年8月9日(土), 10日(日)

会場: 東京大学本郷キャンパス

参加者: ワークショップ①23名, ワークショップ②33名

2. 質的研究法「ライフストーリー研究入門—インタビューの相互行為の視点から—」

講師: 桜井厚氏(元立教大学教授)

開催日: 2014年10月25日(土)

会場: 早稲田大学早稲田キャンパス 参加者: 55名

※同テーマで11月15日(土)に早稲田大学早稲田キャンパスにおいて, アトリエ(研修参加者同士の自主的な振り返りの場)を実施した。参加者: 19名

3. 反転授業入門

講師: 向後千春氏(早稲田大学人間科学学術院教授)

開催日: 2014年11月2日(日)

会場: 東京大学本郷キャンパス 参加者: 40名

◆2014年度の研修予定

1. 日本語教師のためのオンラインIT講座

講師：中澤一亮氏（台湾・元智大学）

開催日：2015年1月26日（月）～3月20日（金） 定員：10名

2. 教室活動のデザインⅦ「ARCS理論で、授業を魅力的にしよう！—授業デザイン理論から日本語授業を再考する—」

講師：鈴木克明氏（熊本大学）

開催日：2015年3月15日（日）

会場：東京大学駒場キャンパス 定員：40名

※上記はいずれも予定のため、研修タイトルや日時、会場等が変更する場合もございます。各研修の募集詳細は決定次第、日本語教育学会ウェブサイトの教師研修ページに掲載します。

<http://www.nkg.or.jp/menu-kenshu.htm>

◆会議記録

1. 2014年度第2回教師研修委員会（2014年7月26日）

- (1) 2014年度研修実施報告
- (2) 2014年度夏季集中研修について
- (3) 2014年度の各研修企画の進捗状況
- (4) 新委員加入について
- (5) 2014年度後期会議日程
- (6) その他

2. 2014年度第3回教師研修委員会（2014年11月29日）

- (1) 新委員紹介
- (2) 会長挨拶
- (3) 学会理念体系の説明（会長より）
- (4) 2014年度研修実施報告
- (5) 2014年度の各研修企画の進捗状況
- (6) 2015年度計画（夏季研修含む）
- (7) 次期委員候補者
- (8) 今後の会議日程
- (9) その他

◆次回会議日程

2014年度第4回教師研修委員会（日程調整中）

（館岡 洋子）

◇ 事務局からのお知らせ ◇

● 2014（平成26）年度会費納入のお願い

当学会の事業活動の円滑な推進を通して、会員をはじめ関係者各位の教育・研究に資すること、並びに、海外における日本語教育活動との交流や支援に寄与することが一層求められています。学会の活動の重要性をぜひご理解賜り、会費納入にご協力くださいますようお願いいたします。

ご送金の際は、必ず会員番号を通信欄に明記してください。

<会費納入方法>

- 郵便振込 00140-5-64631
- みずほ銀行新橋支店（普）130-880757
- 現金書留
- クレジットカード支払（海外在住者のみ受け付けます。事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)にお問い合わせください）。

● 年度会費自動引落システムのご案内

日本国内に銀行口座等をお持ちの方々に、 「年度会費の自動引落システム」をご用意しております。全国の金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・郵便局等）でご利用いただけます。詳しくは事務局会員サービス係(kaiin@nkg.or.jp)までお問合せください。

<年度会費>

- 普通会員 10,000円（年度額）
- 賛助会員 一口50,000円（年度額）

● 住所等の変更について

所定の書式にご記入の上、郵便または下記のいずれかの連絡先にお知らせください。

FAX：03-5216-7552/E-mail：kaiin@nkg.or.jp

なお、メールアドレスを新設された方や、メールアドレスを変更された方は、①会員番号②氏名③名簿への記載の可否を、メールでお知らせください。タイトルは「学会員メールアドレス登録」としてください。電話での連絡は、ご遠慮願います。

● 学会誌メールアドレスについて

学会誌に関連するお問合せは、学会誌専用アドレスにご連絡ください。

学会誌専用：gakkaishi@nkg.or.jp